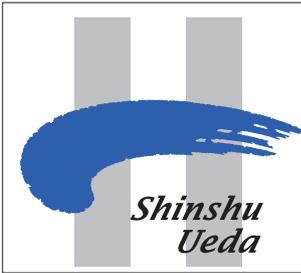


独立行政法人国立病院機構 信州上田医療センター



■発行：令和4年1月 ■発行人：院長 藤森 実

信州上田医療センターの理念

私たちは目指します

- 1)互いに信頼し尊重しあえる関係
- 2)安全で質の高い医療
- 3)情報を共有して納得のできる医療
- 4)地域と連携して安心できる医療
- 5)医療の将来を見すえた健全な経営

【患者さんの権利】

- 1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重される権利があります。
- 2. 良質かつ適切な医療を平等に受ける権利があります。
- 3. 病気・検査・治療・見直しなどについて、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。また、自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 4. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。そのために担当医以外の医師を考へ（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5. 医療の過程で医療者が知り得た個人情報を守られ、入院中も可能な限り私的な生活が乱されない権利があります。

施設認定

- 地域災害拠点病院(1997.1)
- エイズ治療拠点病院(1997.7)
- 地域周産期医療センター(2000.9)
- 地域医療支援病院(2002.11)
- 災害派遣医療チーム(2008.9)
- 第2種感染症指定医療機関(2009.11)
- 地域医療教育センター(2011.4)
- 臨床研修病院 基幹型(2012.4)
- 地域がん診療病院(2016.4)
- 地域医療人材拠点病院(2019.4)

新年のごあいさつ



信州上田医療センター院長
藤 森 実

新年明けましておめでとうございます。
 昨年新型コロナウイルスとの闘いに明け暮れた1年でした。長野県では7月下旬より第5波の患者発生が起り、8月20日には、上小医療圏で最大138名の療養患者さんが発生しました。第4波よりも倍以上の患者発生となりました。信州上田医療センターでは6月1日より新型コロナ病床を8床から12床に増やし、協力医療機関を含めて上田保健所管内で39床の新型コロナ病床を運用しました。保健所の皆様の働きもあり、準備病床の90%まで入院させ、それを上回った場合に限り、宿泊療養、自宅療養にまわ

ていただくという有効な病床運用ができ、一部報道で言われている幽霊病床のような事態は上田保健所管内では起こりませんでした。昨年12月中旬までの当センターにおける新型コロナ患者さんの総入院数は256名です。今後も世界的なオミクロン株の流行を見据え、第6波に向けた準備をする必要があります。昨年10月19日付にて厚生労働大臣より国立病院機構理事長宛、独立行政法人国立病院機構法第21条第1項に基づく要求書が届きました。現行の新型コロナ病床を2割以上増加させること。というものですが、この国立病院機構法第21条は災害発生または公衆衛生上重大な危害が生じた場合に適応されるものであり、国立病院が独法化されてから初めての適応となります。それだけ新型コロナ感染症は大きなインパクトがあるということです。

昨年12月1日より、新型コロナウイルスに対するワクチン接種3回目の先行接種が当センターより開始されました。今後、上田市、医師会、薬剤師会等のご協力で、全ての住民への3回目接種が順調に進み、早急に新型コロナウイルスに打ち勝つ日が来ることを願うばかりです。

昨年6月より東4階病棟の改修工事を行っていましたが、11月1日に24床の新しいHCU（高度治療室）病床がオープンしました。詳細は特集記事をご覧ください。

特集

新型コロナウイルス感染症対応 当院の現状について

感染管理認定看護師 原 かおり

当院では2020年の冬から新型コロナウイルス感染症対応を開始しました。もうすぐ2年になるようとしています。保健所等から依頼のあった疑い患者等を診察する「帰国者・接触者外来」の受診患者数は2021年11月で1249名、入院対応した患者数は256名となりました。

外来対応

主に以下の患者さんの対応を実施しています。

- ①上田保健所から依頼のあった疑い患者の検査・診察
- ②検査で陽性が確定した患者の全身状態を評価入院の必要性を判断
- ③宿泊療養中、自宅療養中患者の状態悪化時の診察

*PCR検査等を希望して受診できる外来ではありません。

一般の外来患者さんとは別の診察室で検査・診察を実施します。特別な換気システムを有する診察室を用意しています。

新型コロナウイルス抗原定量検査・新型コロナウイルス PCR検査を行います。陽性の場合にはCT撮影を行い肺炎の有無を確認します。

状態に応じて当院に入院するか、他病院へ入院を依頼するか、宿泊療養、自宅療養対応とするかを保健所とも相談の上決定しています。

入院対応

- ・新型コロナウイルス検査陽性となり、入院が必要と判断された患者さんが入院となります。
- ・一般の入院患者さんとは別の専用病棟を設けています。
- ・特別な換気システムを有する病室を用意しています。
- ・入院中は病棟の外に出ることはできません。

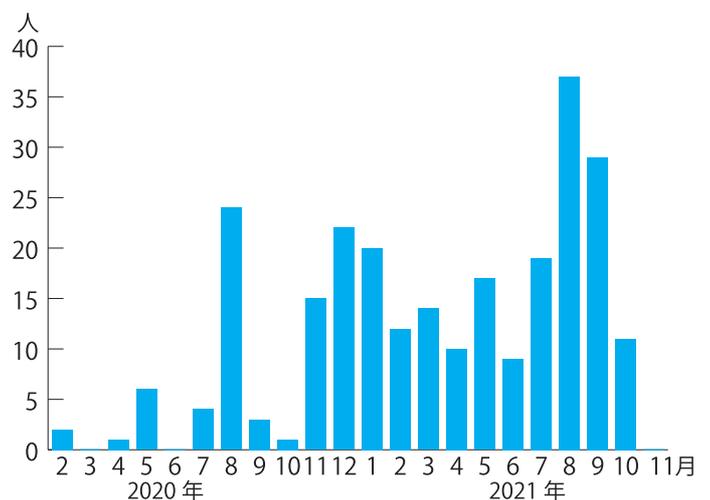
- ・家族の面会もできません。
- ・状態に応じて点滴、内服などの投薬治療を実施します。
- ・退院は国の基準に則り決定されます。
- ・外来・入院とも医療従事者は専用の防護服を着用して対応しています。
- ・外来は医師が当番制で対応しています。
- ・入院は主に呼吸器内科医師が担当します。
- ・看護師は16～17名程度が配属されております。

患者さんには病気になってしまったという不安の中、制限の多い入院生活を送っていただくこととなります。担当する職員は患者さんのお気持ちを丁寧にお聞きしながら、入院生活のサポートを行います。

12月初旬現在、上田市近隣は大変落ち着いた状態が保たれています。しかし、新たな変異株の出現もあり、また落ち着かない日々が戻ってきてしまったように感じています。

市民のみなさまには今後も基本的な感染対策：マスクの着用・手洗いの徹底・ソーシャルディスタンスを実施していただきたく思います。

新型コロナウイルス感染症病棟 入院患者数



特集

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応と血中抗ウイルス抗体価の推移について

臨床研究部長 高橋 済

1. 接種後の副反応としての局所反応の発生頻度は、1回目と2回目でほとんどの世代で有意差を認めなかったが、発疹、頭痛、倦怠感などの全身反応の発生はすべての世代で2回目に著増していた(表1)。また2回目の接種後にGr-2以上の全身反応や38℃以上の発熱が若年になるほど多発していた(表1)。

表1 接種後副反応

年齢(歳)	n=485	1回目				n=475	2回目					
		≥Gr-2 局所反応		≥Gr-2 全身反応			≥Gr-2 局所反応		≥Gr-2 全身反応 §		≥38℃ #	
20-29	119	61	51%	18	15%	117	67	57%	74	63%†	36	31%
30-39	106	46	43%	18	17%	100	53	53%	55	55%†	25	25%
40-49	130	56	43%	10	8%	129	68	52%	63	49%†	25	19%
50-59	103	35	34%	6	6%	102	56	54%ℓ	39	38%†	15	15%
60-	27	12	44%	1	3%	27	15	56%	7	26%‡	2	7%

§ p<0.001. # P=0.012 (世代間分布)
ℓ p=0.003. † p<0.001. ‡ p=0.021 (vs 1回目)

- * ≥Gr-2 (中等度)の局所反応:
- ・鎮痛薬を服用を要す疼痛
 - ・発赤・腫脹・硬結: ≥長径2cm
 - ・投与部位の掻痒感、熱感
 - ・水泡出現

- * ≥Gr-2 (中等度)の全身反応:
- ・ ≥38℃の発熱
 - ・治療を要す発疹、蕁麻疹、アナフィラキシー
 - ・激しい又は広範囲の掻痒
 - ・薬物治療を要すか日常生活に困難を生じる中等度以上の頭痛、倦怠感、鼻汁
 - ・中等度の疲労
 - ・2回/日以上の嘔吐、または6回/日以上の下痢

2. 2回目接種3か月後のCOVID 19抗体価(SARS-CoV-2 neutralizing titer)は若年層で高値を示し、加齢とともに低下する傾向があった(図1)。

図1 年代別 SARS-CoV-2 neutralizing titer (抗体価)
(2回目接種3か月後: n=488)

